

私たちは、まわりの目を気にしすぎて自分の思いとは違う行動をとってしまう…矛盾した行動をとってしまうことがあります。もうすぐクリスマスです。クリスマスにはイエスさまがお生まれになりますが、その前にバプテスマのヨハネが生まれます(ルカ1:5~22、57~65)。矛盾とはどういう意味ですか?「こうだと分かっているがこうしてしまう」「こちらではこう言ってあちらではああ言う」つまり「つじつまが合わない」と言うことです。最終的には「嘘」と言うこととなります。しかし世間ではこの矛盾が多いです。ですからこの矛盾がなければ生きていけません。だからこの矛盾をどう解釈するかというと「パラドックス」です。パラドックスの語源はギリシャ語で「一般的に受け入れられている概論・正しように見える前提と、妥当に見える推論から、受け入れがたい結論が得られる事を指す言葉」です。進化論・数学はパラドックスの良い例です。私たちは自己矛盾の固まりです。自らが行動しようとしていることに色々理由をつけて止めてしまいます。ザカリヤもそうでした。ザカリヤは立派な人で人々からも尊敬される祭司でした。聖書に書かれるほど正しい行いをするほどの人でした。旧約聖書や御使いについても良く理解していました。しかし、本当に御使いが現れた時に怖くて畏れました。さらに御使いの言葉を信じませんでした。ザカリヤとエリサベツも子どもを授かるには年をとりすぎていたからです。ザカリヤは立派な人でしたが矛盾していました。頭では聖書のこと・御使いのことを良く理解していましたが心の中ではこのように思っていたのです。「言われていることも分かるし奇跡も信じます…だけど・でも、それはないでしょ?だって〇〇なんかもん」と言われたことが受け入れられなかったのです。私たちと一緒にです。私たちは自分たちに語られることが正しい・こうするべきだと知っています。しかし色々理由をつけて受け入れられないのです。とくに人に対してどう見られるか比較などをもってしまいます。ですから私たちは①**神の言葉に素直になる**。のです。人の言葉には耳を傾けなくて良いです。色々な人が色々なことを語ってきます。しかし神さまが私たちの語っていることは素直に聞かなくてはいけません。それでは何が神さまの言葉で何が人の言葉なのかをどうやって判断しますか?ザカリヤのように目の前に御使いが現れると神さまからの言葉だとすぐに分かります(それでも信じられませんでした)が、ほとんどの場合が人を介して伝えられたり夢で知らされたり聖書を開いてたまたま与えられた御言葉だったりします。だから自分が人に言われて腹が立ったこと・嫌だと思ふこと…ザカリヤもそうでした。一番願っていたが叶えられていなかった、言われて一番嫌だったことを御使いに語られました。それが神さまに語られていることです。神さまが私たちに語ろうとされていることはその時、すでに分かっていること・やらなければいけないと知っていてできてない事だったり、私たちにとって聞きにくいものです。しかし、このように語られているのは私たちの過去の失敗を責めているのではありません。私たちが本来行うことのできる素晴らしい姿を・私たちの光り輝く姿をこの暗闇の世に送り出すためです。だから私たちは神さまの言葉に素直にならなくてはいけません。ヨセフ・マリヤは素直でした(マタイ1:19~25、ルカ1:26~38)。聖書の中で、神さまの言葉を素直に受け入れた人は大いに祝福されています。私たちにもバプテスマのヨハネと同じように任された働きがあります。私たちが神さまの言葉に素直に聞き従うことで多くの実がなります。私たちは暗闇を光り輝かせることができます。だから私たちは素直にならなくてはいけません。そして②**失敗した時が大切です**。人を見ないようにしましょう。私たちは失敗してしまうとどうするでしょうか?私たちは失敗するとその場から逃げてしまいます。私たちは失敗すると人を見て言い訳をしてしまいます。もしくは約束を果たさない・決めたことを実行しない…そしてその理由を無理矢理結論づけて概念化してしまうのです。だから失敗した時こそ大事なのです。もしも間違ったことをして失敗してしまったら素直に謝ったり自分の非を認めましょう。私たちが失敗した時に素直にそのすべきことを(ごまかしながらも)正しく行おうとすれば物事は素晴らしく解決されます。ザカリヤも認めました(ルカ1:59~64)。この時代子どもの名付けには慣習がありました。しかし人の目を気にせず神さまの言葉に素直に従ったのです。やりたくないことをやったのです。本来そうすべきではないんですがそれでも神さまがせよと言われてので実行したのです。ザカリヤは一度失敗して口がきけなくなりました。だから同じ人々の意見をおそれたり自分の感情に負けるなど過ちは2度と繰り返さなかったのです。だから立派な人だったのです。失敗するのはみんな同じです。アブラハムも同じでした。1度は失敗してしまっても同じ過ちは繰り返さずに神さまを信じたのです。間違ったことをして失敗してしまったら素直に謝ったり自分の非を認めましょう。そして③**信じて祈り、矛盾をしっかりと探りましょう**。私たちの祈りは必ずきかれます。私たちが願っていることは神さまの方法で必ず叶えられます。3本の木は自分たちの願った姿ではありませんでしたが、神さまの方法で願いが叶えられました。必ずそうなるのです。願ったようにはないですが神さまの方法で願いは叶えられます。ですから私たちが願った以上のことが起こるのです。それを信じていますか?だから信じなければいけません。(使徒12:1~17)ヤコブが殺されペテロは投獄されていました。しかしペテロは神さまに全てをお委ねしていました。イエスさまが捕まった時に犯した過ち(3回知らないという過ち)は2度と繰り返さないと決めていたのです。教会では多くの人々がペテロが助かるようにと熱心に祈っていました。そうしていると御使いが来てペテロを助けてくださいました。教会に帰ったペテロを迎えた女中も信じられなくてびっくりしました。中で祈っていた多くの人たちもこの報告を受けて「あなたは気が狂っている」と信じられませんでした。熱心に祈りながら…。私たちにはこのようなことがないでしょうか?自分で勝手にことの成り行きを描いてそれ以外の(神さまの方法の)奇跡は信じられなくなっていますか?1番目のポイントは「神の言葉に素直になる」でした。「素直に聞きなさい」と言われています。今まで素直に聞き入れずに失敗してきたのです。だから同じ過ちは2度と繰り返さないように「失敗した時こそ大切に人を見ない」で行動しましょう。だからこそ神さまに全て委ねて信じて祈り、矛盾をしっかりと探っていきましょう。私たちは時々早とちりをして勝手に神さまのことを粹決めしたりことの成り行きを決めてしまいます。しかし神さまは私たちがそのような間違っただ判断をしないような力を与えてくださっています。だから信じて祈ったら必ずかなうと信じましょう。そしてその奇跡が目の前で起こったら「それは違う」と拒否するのではなく感謝をもって受け取っていきましょう。(要約者:行司佳世)